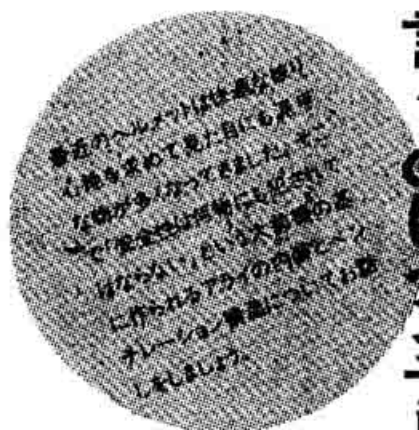


冬だと言うのにペンチレーシヨンの話。



ARAI NEWS

Actual Story From Inside.

アライのラバイド等の内装布地は普通の吸水性布地とは違い、直接肌に触れる表面には吸水性の悪いものを、裏側には吸水性が非常に良いものをラミネートさせた特殊吸水性布地を使用しています。この布地では一度裏側に吸われた水分がなかなか表面に戻らないように出来ているため、肌に当たる部分は常にサラツとした感触を保つことが出来るんです。これにより汗をかいたすぐあとにヘルメットを被ってもベトツとした感触がなく気持ち良く被れるようになったわけです。この布地は何と3年前から使っているんです。だからといって、ただ単にこの布地だけを使っても汗は布の裏側にあるクツシヨン材に吸われ、クツシヨン材のタレや老化を早くしてしまう恐れもあるんです。ヘルメットのクツシヨン材というのは、スポンジと同じで繊維が骨格を作りながら組み合わさっており、その骨格の間は膜が貼っている部分が多く出来ています。この膜のため、空気を通そうとしても膜によつてはばまれてしまい通気性が損なわれ、汗も溜まってしまうわけです。アライのクツシヨン材はこの備かな空気抵抗をも見逃さずに、骨格の間の膜を特殊な爆発処理により取り去り通気性を向上させ汗が溜まらないような素材を採用しています。

このように素材ひとつひとつにも特徴

のあるものを使用していますから、構造も出来るだけ空気が通り易くなるよう努力されています。アライのペンチレーシヨンのシステムのうちアゴ部のスリットあるいはオプシヨンのブローベンチレーションから入った風は、内装の裏側を通り上方に吹き上げるような構造になっていますが、前部から後部へ抜ける際に出来るだけ空気の流れを防がないように、内装上方の切断面の布を折り曲げることなく、クツシヨン材からそのまま空気が抜けるような構造にしています。見たためには縫製が少し荒くなったようにも見えますが、布とクツシヨン材との接合が強化されているので安心して下さい。このように空気の抵抗を出来る限り減らし、風は頭部の隙間を通って後頭部ネックパッドのメッシュ部分から抜けていきます。また新しいラバイドVIIIでは、ブローベンチレーションから入った風が何の抵抗もなく頭の中を通り抜けるように、クツシヨン材の一部を取り去った溝が前後に入っています。このシステムでは空気が直接顔に当たり、寒い日に走ると効果があまり強烈なためにペンチ

動きすぎてこおりついてしまった...ととれない!!



こんな細かい気配りがされ作られているアライの内装。被り心地はスペンサー選手や平選手が絶賛するものとまったく同じです。10年にも及ぶレース活動は何百人にも及ぶ内外のレーサーの頭を細かく採寸し貴重なデータとして役立てています。レーサーのヘルメットの多くが手直しをしなければ使えないようなら、まずラインを流れている一般製品から直す。これは今も昔も変わらぬアライのポリシーです。寒い日に寒いペンチレーシヨンの話がまわって読んでくれてどうもありがとうございます。

